協力隊を支援する
やまがた
地球家族の会

平成18年3月5日発行　第3号

やまがた地球家族

YAMAGATA GLOBAL FAMILY

『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』機関誌　VOL.3

世界を撮り続ける写真家・長倉さんを招いて ～長倉洋海 講演会＆ワークショップ

2005年12月11日（日）、鶴岡市の出羽庄内国際村において「長倉洋海講演会＆ワークショップ」を開催しました（主催：当会／出羽庄内国際交流財団／山形県国際交流協会／JICA）。

あいにくの雪模様でしたが、地元小学生や内陸からの参加者も含め、約100名が世界について考え、語り合いました。

第1部は長倉さん撮影のスライドを見ながらのトーク「紛争地で出会った子どもたち」。アフガニスタンやアマゾンに暮らす子どもたちの素晴らしい笑顔が印象的でした。

第2部のワークショップは、東北公益文科大学で高橋英彦教授（当会理事）の下で国際協力を学んでいるゼミ生たちが企画運営を担当。長倉さんを中心に、幅広い世代が活発に議論しました。

（2頁へ続く）

『地球家族・地球市民』 協力隊を支援するやまがた地球家族の会　副会長　佐藤邦彦

1965年12月に、フィリピンに12名、マレーシア、ラオスにそれぞれ5名、カンボジアに4名の青年が青年海外協力隊として初めて派遣されました（「クロスロード」03年10月号）。当時の駐日米国大使ライシャワー氏のご令室のハル夫人も日本各地での講演のなかで、「日本人が国際社会に貢献できる1つの方法は、発展途上国への技術援助だ。日本の青年海外協力隊も始まった。日本人も世界の人々とともに大いに国際貢献ができる。」と人々に国際的な理解の重要性を訴えたということです。（「ハル・ライシャワー」上坂冬子／講談社）

今、グローバル化がすすむなか、みんな地球家族・地球市民のこころで、国際理解、国際交流、国際協力、そして在住外国人ともどもの多文化響きあうゆたかな地域社会づくりをトータルにめざしていきたいものです。

（１頁より続き）●長倉さんの言葉から

「アマゾンの子どもたちも、日本の子どもたちも、瞳の輝きは変わらないんです」

「紛争地の子どもたちはみんなしっかりしている。それは大人がみなしっかりしているからなんです」

「若い頃は世界に通用するような写真が撮りたかったけれど、今は自分にしか撮れない写真を撮りたい。そのためには人間的に広くならなければならないと思っています」

●斎（いつき）小学校（鶴岡市）の子どもたちからの感想

・紛争地の成長を撮っているなんて、素敵な仕事だなあと思います。

・豊かな国は協力などがあることはあるけれど、みんなその大切さをあまり感じなくなっていると思う。

・戦争というのは人を悲しみにもつきおとすけれども、みんなで助け合ってくらす、一生懸命生きるということを教えてくれるのだなあとしみじみ思った。」

山西さん、鈴木さん 舟形中学校 が受賞
～中学生・高校生エッセイコンテスト

JICA が毎年開催している《中学生・高校生エッセイコンテスト》。中学は 16,695 作品、高校は 11,657 作品に上る応募作品の中から、山形市立第五中３年・山西香澄さん、県立寒河江高１年・鈴木志織さんがそれぞれ入選されました。

山西さんの作品【平和の小包】は、ガールスカウトとしてパキスタンに住むアフガニスタン難民の子どもに「ピースパック」（筆記用具や歯ブラシなどを詰め合わせた布の巾着）を贈った体験を通して、イスラム文化や世界の平和について考えています。

鈴木さんの作品【世界の厳しい現状から考えること】は、エビフライや割り箸など日常的な題材を切り口に、マングローブの森の減少などの環境破壊、低賃金労働による貧困といった途上国での諸問題を生む構図について考察しています。

また、舟形町立舟形中学校は学校賞を受賞。２学年で計 55 作品を応募した、学校ぐるみの取り組みが評価されました。

約３０名が世界で活躍中！　～山形県内からの派遣状況

2006 年１月現在、山形県内から青年海外協力隊員として派遣されているのは２２名（男８名、女１３名）。職種では、小学校教諭が５名ともっとも多く、コンピューター技術の３名が続きます。保健師・エイズ対策など保健衛生分野も目立ちます。派遣先として一番多いのはアフリカ地域ですが、アジア／中米／南米／オセアニア／中欧と、まさに世界中で汗を流しています。

シニア世代でも、日系社会シニアボランティア／シニア海外ボランティアという制度で３名が派遣中。豊富な人生経験とキャリアを生かして、協力隊とは違った形で活躍しています。

また、専門家として有給で派遣されている方は４名。途上国で稲作・水産などの技術指導にあたっています。

※上記は JICA からの派遣データであり、県内の NGO などから派遣されている方々も多数おられます。

旧正月の沖縄で開発教育を考える ～第 14 回 開発教育全国集会

2006 年 1 月 28 日～ 29 日、第 14 回 開発教育全国集会 沖縄大会【地球市民の輪を広げよう ～“ゆいまーる”沖縄からの試み】（主催：社団法人協力隊を育てる会、沖縄県青年海外協力隊を支援する会）が、JICA 沖縄国際センターで開催されました。「ゆいまーる」とはサトウキビ収穫などの際の労働交換を意味する言葉で、「協働し、支え合う」ことを象徴しています。

カンヒザクラが満開の旧正月に行なわれたこの大会に、当会からも２名が参加。レポートをお寄せ頂きましたのでご紹介します。

《ゆいまーる》を経験できた２日間

＊山口考子

私たちの生活は世界の人々とつながり、影響を及ぼしあって、国境を越えて一人ひとりが「地球市民」として、この地球を支えています。沖縄と世界のつながり、人と人との交流・協力、環境問題、文化などを互いに学び合うこの大会に、鶴岡２中教諭の小林明子さんと２人で参加してまいりました。小林さんは、開発教育を自分の教育現場で実践し、次の時代を担う子ども達に世界を視野に入れたメッセージを送りたいと願っての参加でした。

写真右が山口考子さん／左が小林明子さん

豪雪の庄内から沖縄に着いたときは桜が満開で、全国津々浦々から参加した２３０人の同士と共に“出会い”“学びあう”機会を得た事は大変有難い事と思いました。

基調講演は、沖縄大学学長・桜井国俊さんによる「軍隊を捨てた国コスタリカに見る平和教育」でした。「日本の平和教育は、戦争の悲惨さに力点が置かれているが、コスタリカの平和教育は身近な平和の実現を大事にする実践的なもので、自然資源を守り生かすエコツーリズムに発展している」とし、映画「軍隊を捨てた国コスタリカ」（早乙女愛さんプロデュース）のダイジェスト版が上映されました。いつか「やまがた地球家族の会」でもこの映画の上映会を企画して欲しいものだと思います。

最終日は、現在も米軍用地が４５％を占める読谷村の「平和と文化の村作り」の取り組みを学ぶ「沖縄平和ツアー」に参加してきました。

《訃報　武田基嗣さん》

2005 年 8 月、青年海外協力隊員としてニジェールに派遣されていた山形市印役町の武田基嗣さん (26 歳) が現地でお亡くなりになりました。武田さんは山形南高、盛岡大を卒業し、教員免許を取得。2004 年 12 月から派遣され、現地の子どもたちにサッカーなどを教えておられました。心からご冥福をお祈り致します。

今回の開発教育全国集会で、人と人とがつながり、地球で起こっているさまざまな問題を理解し、共有・解決にむけてともに歩む、沖縄ならではの《ゆいまーる》の精神を経験できました。

桜咲く国での「新年」

＊小林　明子

沖縄はちょうど旧正月。「年末年始」に行われた研修は、「新年」よろしく様々なことを考える機会となった。

「新年」に私が考えた事は、これからは未来の宝、つまり子どもたちがいかに世界と仲良くなるかということである。私自身、十分な海外経験があるとはいえない。そこで、その疑問を解消するために「国際理解教育＝英語？」というテーマの分科会に参加した。

参加者は半数が教育関係者で、学生や協力隊ＯＢの方もいらした。モノランゲージとフォトランゲージの具体的手法を学びつつ、バングラデシュの事がクイズ形式で紹介され、参加者全員で楽しくバングラデシュについて共有することができた。

満開のカンヒザクラ

分科会の中で、自分の経験や知識が不足していると感じることはないかという投げかけがあった。私は今まさにその状態にあるので、皆さんの意見が参考になった。「知識を与えるのが我々の仕事ではなく、共に学べばいいのだ」という一言に、生徒との共有を学んだ。“目からうろこ”であった。JICA などにも積極的に協力をお願いして、協同で開発教育を行なえばよいのではというご意見もあった。肩の力を抜いて生徒と共に学んでいこうと改めて感じた。

「国際理解教育授業」の様子。鶴岡市立第二中学校にて。（中央が柴田恵子さん）

そして２月、勤務する学校に JICA 東北から協力隊 OB の柴田さんをお招きし、エルサルバドルの話を中心に国際理解教育に取り組んだ。「外国」の話をするといつも以上に目がキラキラする生徒たち。この日もキラキラ授業になった。中には、協力隊になりたいという生徒もいた。

いつか「外国」ではなく「仲間」「友達」になればよいなという私の願いも含めて、生徒に「地球の仲間」の話をしていきたい。

☆お問い合わせ／ご入会のお申し込みは、当会事務局まで。

やまがた地球家族　Vol.3　平成１８年３月５日発行（第３号）　発行人／酒井忠久

発行／〒 999-7725 山形県庄内町沢新田 151 富樫方　『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』事務局
Tel&Fax) 0234-42-1458（富樫）　E-mail) info@chikyukazoku.org　Website) http://www.chikyukazoku.org/

■協力隊を支援する『やまがた地球家族の会』入会のご案内
＊会費：個人会員＝ 3000 円／家族会員＝ 1000 円（個人会員の家族）／学生会員＝ 1000 円／団体会員＝ 10000 円（企業及び団体）（一口）
＊会員特典：JICA ボランティアの姿を通して、世界が見える！「国際ボランティアマガジン 月刊《クロスロード》」を、年間購読料 5000 円のところ、希望する会員には 2000 円の送付手数料のみで 1 年間 12 冊ご提供いたします。